

「タブレット端末を意思伝達支援機器導入前の患者 さんに使う方法や現場での活用事例」研修会報告

外崎 裕子

- ◆日時：平成 25 年 11 月 30 日 9:30-12:00、於：札幌市民ホール 2 階
- ◆主催：NPO 法人 iCare ほっかいどう
- ◆講師：NPO 法人 支援機器普及促進協会 高松 崇氏

近年、普及が進む iPad などのタブレット端末。指でなぞって画面を移動させたり、指を大きく開いて拡大したり…。

しかし、腕や指が上手く使えなくなった時、それらは使いにくいものとなります。そんな時、設定を変更することで、使いやすくすることが出来ます。iPad の「身体機能サポート」を使って実習しました。

「設定」を開くと、「アクセシビリティ」の中に、「Assistive touch」、「スイッチコントロール」という項目が出ます。

●**Assistive touch**：指の操作が苦手な方向けの機能です。研修では、画面上に出てくる「◎」に似た模様を触るだけで、右や左に画面を移動させる方法を実演しました。

●**スイッチコントロール**：画面の項目を、順番にハイライト（カーソルで囲まれている状態）します。目的の所で画面に触れると、アプリ（アプリケーション。具体的な作業をするためのソフトウェアのこと）を実行できるようになります。レッツチャットのような、意思伝達装置を想像してみてください。文字列が光り、目的の文字の所でスイッチを押して、文字を入力していきます。それと同じ様な機能です。アプリが次々と光って、目的の所でタッチすると、そのアプリを開き、操作ができるのです。

詳しい設定方法・使い方は、インターネットでキーワードを検索すると出てきます。そちらをご参照ください。

色々なスイッチも紹介されました。例えば iPad タッチャー。一方を画面につけ、一方に普段使っているスイッチをつけることで、画面を操作できます。

スイッチ以外にも、選択項目を読み上げる機能が内蔵されていること、会話を支援するアプリの紹介もありました。

最新の支援技術の紹介もされました。価格掲載は差し控えますが、高機能なのに手の届きやすい価格帯のものがいくつかあります。ネットなどで検索してみてください。

- RING：指輪がコントローラーになっています。画面を触らずに、指1本で操作できます。2014年発売。
- LEAP MOTION：空中で手を動かすだけで、パソコンが操作できます。枕元にパソコンを置けない時などに便利です。発売中。
- Face MOUSE：市販のウェブカメラを取り付け、顔の一部を動かすことで、パソコン操作ができます。発売中。
- The Eye Tribe Tracker：視線でパソコンやタブレットの操作が可能となります。マイトビーと同じ様な仕組みです。USB接続なので、タブレットに接続すれば、外出先でも使えます。発売中。

iPad 以外にも、様々なタブレット端末があります。これからも、驚きの機能をもったものが続々登場する予定です。機種それぞれに特徴があります。ご自身の障害・用途に合わせ、端末を選択して下さい。

講義で使ったスライドは、**NPO 法人支援機器普及促進協会のホームページ** <http://npo-atds.org/> 「研修会 プレゼン資料」として公開されています。その他にも役立つ情報満載です。

この研修会は、**NPO 法人 iCare ほっかいどう**が主催されました。ホームページは <http://icare-h.org/> です。意思伝達装置の支援をされています。元々は、札幌チャレンジドで同じ活動をされていました。お世話になった方も多いのではないのでしょうか。2012年度から、独立されています。